

いはらき



アイちゃん

保育通信

No. 118

平成29年12月26日発行



茨城県保育協議会／茨城県民間保
育協議会／茨城県社会福祉協議会

目 次

特集 茨城県保育協議会 各委員会の紹介……………	1
ブロック活動報告……………	2
第39回茨城県保育大会……………	4
平成29年度職員研修……………	8
新設保育園紹介……………	9
みんなの広場……………	12

茨城県保育協議会

〒310-0651 水戸市千波町1918
茨城県総合福祉会館 2 F 茨城県社会福祉協議会内
TEL 029-243-4034 (直通) FAX 029-241-1434
<http://www.hokyo-ibaraki.jp/>





茨城県保育協議会委員会活動内容についてご報告させていただきます。

総務委員会を除く五つの委員会では、保育協議会の副会長の方々をリーダーとして委員長、副委員長を中心に各ブロックから選出された委員さんによって運営されています。各委員会の活動内容は、以下のようになります。

○事務局

福祉会館の二階、社会福祉協会の並びに席を構え、二人で担当しています。主に研修会の開催や役員会・委員会の開催がスムーズに進行できるようにお手伝いさせていただきます。

今年度は関東ブロックの当番県という事で、昨年度より社協との連絡調整を図りながら、約一年余りをかけての開催事務をしております。

今後も役員さん始め、会員の皆様のお役に立てるよう頑張っていきます。

◎保育の日委員会

保育大会が開催されるまでの準備をする役目です。県保育協議会長及び副会長と事務局の方々にお力添えをいただきながら、各ブロックから一人ずつ選出された十五人の保育の日委員で行っています。その年の保育大会が終わると同時に、次年度の開催場所と講演やアトラクション等検討します。開催場所は、参加人数に対応できるホールの座席数、トイレの数や駐車場の広さを踏まえ、地理的にも毎年偏りなく巡れるようにと配慮しています。講演等については、委員の皆さまが参加する事で自己啓発につながり更にリフレッシュできる内容であることを目的として検討し、『参加して良かった』と笑顔の感想をいただけるよう委員全員で取り組んでいます。

◎保育環境対策部会

委員会名の通り、保育環境をよりよくするための、行政との取りまとめ役として位置づけられた組織です。

主な活動としては、県の子ども家庭課との情報交換、保育協議会の保育環境対策委員会と歩調を合わせ、県社協や行政への窓口として、保育推進連盟と共に予算要望を行い、また保育三団体正副長会議への出席に

よって予算要望や、国への陳情のための協力金の依頼、署名活動を行っています。

特に今年度から、保育の質の向上のために、職員の配置基準を含めた改善、整備交付金、乳幼児期の教育・保育の無償化、子ども子育て新制度の見直しに向けての対応など、要望してまいります。

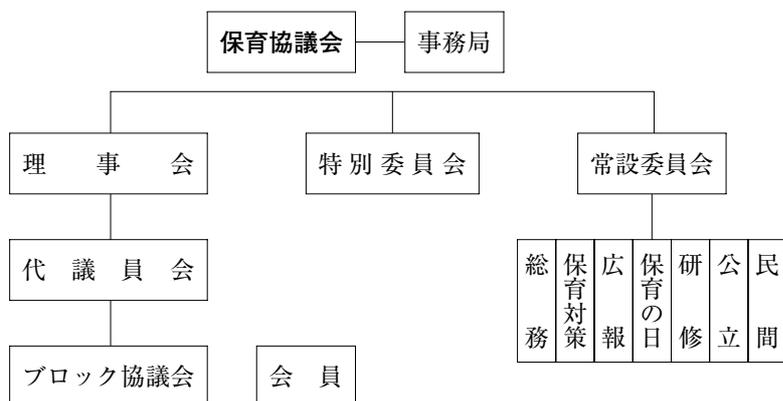
会員の皆様一人ひとりのご協力を得ながら、さらに良い環境にしてい

◎研修委員会

研修委員会は茨城県保育協議会研修担当副会長・研修委員長・研修副委員長県内十五ブロックから選任された委員により構成されています。

研修は、保育士研修会・中堅保育士研修会・保育研究研修会・食育研修会・看護職員研修会・主任保育士研究協議会・保育研究発表会・所長研修会など年八回行っています。その他、茨城県の保育士人材確保のために、潜在保育士の研修会も県から委託を受けて行っています。研修委員の仕事はこのような研修会の企画と運営です。年五回の研修委員会を開催し、講師の選定と会場・日程調整を行います。それぞれの研修にふさわしい講師・学んでみたい講師を選定するのですが、空いている会場選

びと講師の先生の都合を合わせて決めていくのが大変です。研修委員は常にアンテナを張って講師の情報を集めるよう努力しています。今後、キャリアアップの研修を加味しながら、キャリアアップにいかない職員に目を向け、どんな研修が必要とされるのか、研修委員全員で考えていきたいと思っております。



ブ ロ ツ ク 活 動 報 告

水戸ブロック 保育協議会

会長 清 水 明 子

(水戸市立新原保育所)

水戸ブロックは、水戸市と城里町の公立十四、私立四十二の計五十六施設、七百五十名の会員で構成されています。会員相互の親睦を深め、各部会では、専門性を高める研修会を実施してまいりました。

◎施設長部会(年三回)

年度初めに、子どもの感染症予防についての話を、保健所職員から聞きました。視察研修では、食べることは生きること、給食もおやつも手作りすることを大切にすることをテーマに食育活動に取り組んでいる、鹿嶋の保育園「野草舎」を訪ねました。

◎保育士部会全体会(年二回)

講習会では「劇遊びの指導法の工夫」を学びました。劇遊びは総合的な活動であり、どんな力を育てたいのかを考え、先生自身が楽しく演じることが大切だと再確認しました。

視察研修では、牛久の「つつじが丘ふたばランド」にて、食育計画に基づいた保育の展開や、アレルギー除去食等の提供における職員連携の様子を見学させていただきました。

◎給食部会(年四回)

食品衛生及び保育所における栄養管理についての講演を聞きました。

行方の「やきいもファクトリー」見学では、茨城の特産物であるさつまいもについての歴史等を学びました。

調理実習では、大量調理向けやアレルギー対応メニューを、根本悦子先生に紹介してもらいました。

◎全体会(年二回)

講演会では、茨城大学の勝二博亮先生より「幼児期における不器用さの支援を考える」と題し、気になる子どもへの気づきと対応についての話を聞きました。

恒例の親睦会は、星野由美子さんによる「クリスマスマジックコンサート」です。歌と演奏を聴き、心豊かなひとときを過ごしました。研究委員会は、「みんなで食べる

とおいしいな」主任会では、「保護者支援」をテーマに二年間研究を進め、その成果を発表しました。今後も、子どもと保護者、そして職員みんなが、笑顔で繋がる保育所(園)をめざしていきたいと思えます。

つくばブロック 保育協議会

会長 山 中 美世子

(つくばみらい市立伊奈第4保育所)

つくばブロックは、つくば市とつくばみらい市の公立二十八・私立三十六施設で構成され、会員数は七百六十八名になります。

平成二十九年年度、各部会の活動内容について報告させていただきます。

◎つくばブロック理事会(年三回)

◎施設長部会(会議年二回)

・合同講習会

「保育所での食物アレルギー・アナフィラキシーショック対応」

講師 佐藤さくら氏

「若手を育てるコミュニケーション」

講師 孫ちよんす氏

・施設見学研修

(栄養士・調理員対象)

「トモエ乳業」

・民間保育園との共催事業

「食育フェア」

◎保育士部会

・主任保育士研究会(年五回)

テーマ「保育所(園)のチーム

ワークを高めるために」

主任保育士としてできること

・講演会(年二回)



〈気になる子への気づきと対応〉



〈茨城大学教育学部勝二博亮教授の講演〉

「コミュニケーションについて」

講師 大江 恵子氏

「気になる子と保護者支援」

講師 前田 泰弘氏

・講習会（年三回）

「その場で出来る簡単シアター」

講師 大森 靖枝氏

「以上児向けの運動遊び」

講師 中右 貴久氏

「わらべうた遊び」

講師 相崎 伸子氏

・保育士研究会（年七回）

テーマ「体幹を育てる遊び」

楽しく遊んで運動機能を高める

◎保健部会

・講演会

「小児外来で見る発達障害について」

講師 衣笠 英世氏

◎調理部会

・講習会（年二回）

「食品衛生について」

講師 前田 裕子氏

河合眞生子氏

「魚料理の新しい調理法」

講師 大洗ホテル総料理長

つくばブロックでは、これらの活動を通して会員相互の交流を図り、

保育の質の向上につながるよう充実した活動に取り組んでいきたいと思

います。

います。



〈栄養士・調理員は乳製品製造工場を見学〉



〈体を動かし保育に活かせる研修〉

県西ブロック 保育協議会

会長 菊地 弘子

（認定こども園境いずみ保育園）

県西ブロックは、古河市、境町、五霞町、坂東市の公立十一、私立十四の計三十五施設で構成され、会員数は四百八十五名になります。

平成二十九年度の活動内容についてご報告いたします。

◎施設長部会（会議年六回）

・施設長研修会

「幼保小の連携・接続について

～認定こども園・保育所の取り

り組みを中心に～」

講師 茨城県教育庁就学前

教育・家庭教育推進室

室長 大崎 弘美氏

・施設研修

文京区立お茶の水女子大学こど

も園

・合同研修会「歌のちから」

講師 新沢としひこ氏

◎保育士部会

・保育士代表者会

テーマ「気になる子について」

・保育研究会

テーマ「幼児（年少・年長）の

午睡の実態と午睡の在り方の

研究」

・保育士研修会

「保育に生かせる楽しいリズム遊び」

講師 ケロボンズ

「ひとりひとりがみんな大切」

子どもの心に気づくととき」

講師 くすのきしげのり氏

◎調理部会

・視察研修（工場見学）

ガトーラスハラダ

岩下新生姜

保育界も変革の嵐の中にいます。

部会ごとに、今取り組むべき課題と

して行政担当者や先駆的取り組みを

している園での学び、絵本作家の方

のお話や歌遊び、体操遊びの研修を

行いました。忙しい日々の中ですが、

会員相互が交流し、力量を高めてい

くことでみんなの笑顔につなげてい

きたいと思えます。



〈絵本作家 くすのきしげのり先生を囲んで〉

第 39 回 茨城県保育大会

テ ー マ すべての人が子どもと子育てに
関わりを持つ社会の実現をめざして

趣 旨

平成28年6月「ニッポン一億総活躍プラン」が閣議決定され、量的拡充、質の改善のために政府が推進する「待機児童解消加速化プラン」は当初目標を上回るペースで施設整備が進んでいます。

しかし、依然として待機児童は増え続け、保育士確保が量的拡充に追いついていません。

保育士確保のための様々な施策が打ち出されていますが保育士不足はかなり深刻です。特に早期の処遇改善が強く求められます。

一方、平成27年度末には社会福祉法人改革を行うための社会福祉法の一部を改正する法案が可決され、法人としてのあり方が求められています。現代社会の抱える様々な福祉ニーズを受け止め、向き合い、柔軟に法人運営をしていくことが求められるでしょう。

私たち保育関係者は、これらの様々な現状を踏まえて、保育者一人ひとりの資質の向上、地域の子育て支援、皆に愛される園になるよう努めなければなりません。

そして、何よりも子どもたちの笑顔と最善の幸せ、成長を願い、すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして、本大会を開催いたします。

主 催

茨城県保育協議会・茨城県民間保育協議会・社会福祉法人茨城県社会福祉協議会

後 援

茨城県・茨城県市長会・茨城県町村会・結城市

期 日

平成29年11月11日(土)

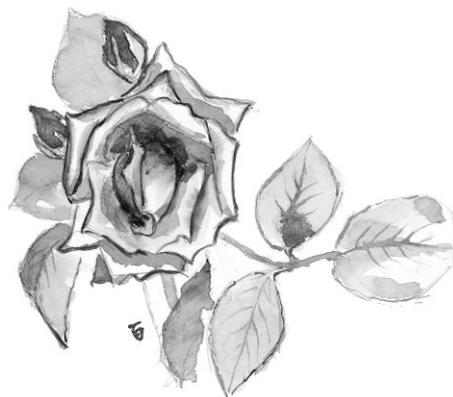
会 場

結城市民文化センターアクロス

茨城県結城市中央2-2 TEL 0296-33-2001

参 加 者

縣市町村関係者・保育所関係者・保育所保護者



笑顔いっぱい 会場の様子



〈会場にひびく「花のおさなご」〉



〈会場をまき込んで〉

おめでとう
ございます



永年会員表彰者
(85名)

〈平成29年度茨城県保育協議会会長表彰者代表〉



〈スキャンポといっしょに…〉

永年勤続表彰



とうぞう
おめでとうございます
受賞

保育大会に参加して

県北ブロック

田尻徳風保育園

保育士 星野めぐみ

十一月十一日に結城市民文化センター「アクロス」を会場に、第三十九回茨城県保育大会が開催された。私は永年勤続の表彰をいただくこともあり、今回参加させていただいた。

保育士になってからの十八年という年月は、同じ年はなく、重ねることには保育への考え方や向き合い方も深みを増していった。子ども達から学ぶことも多く、日々成長、日々勉強だと思える。

そのような中、「言葉の力」をテーマにした金原亭世之介師匠の講演が聞けた。

保育の世界も日々、人と関わる職業である。そこでは表情、態度、言葉などに気を払いつつ、子どもや保護者、職員とコミュニケーションを上手に取っていく必要がある。

講演では、朝の「おはようございます」をどう発するかから、今日一日をどうスタートできるか、モチベーションが変わってくる程の大切な一言だということに気付かされた。言葉の発し方により、体にもたらす影響があると力強く立証しながら教えて下さった話には、目が覚める思いだった。今のままでは毎日がつたいないと感じる程、もつと言葉の持つ能力を理解し使えば、心地の良いより良い人間関係が作れるのだという思いが持てた。今後は、是非意識して実践していきたい。

そして、現役保育士ユニット「すかんぼ」のコンサートは、子ども達と楽しめるあそび歌が盛り沢山で、会場で味わえたワクワク感が忘れられない体験となった。同じ保育士でありながら、想像を形にできる才能、努力の素晴らしさにとても憧れをもった。ただ、自分には出来ないと思うようにはせず、良いものを吸収し、自分自身も心をいつも新鮮に、楽しい保育をもつとしていきたいと思える刺激をもらえたコンサートだった。人間形成に大切な乳幼児期に関わる仕事であるこの道を選び、ここまで勤めさせてくれたことを、今回の保育大会での受賞を通じ改めて感謝し、今後も気持ちを引き締め、より良い保育を目指し励んでいきたい

と思う。

つくばブロック

富士見ヶ丘認定こども園

園長 川又朋子

ドライブ日和の大会当日、会場に向かう景色では、日頃から見慣れている筑波山が、場所によってこんなにも違って観えることに驚き、感動しながら会場に入りました。

大会は、表彰・講演・コンサートと短時間の中、盛り沢山の充実した時間を過ごすことができました。

永年表彰では、保育勤続年数十五年以上の方々が呼名紹介され、各先生方の後ろ姿がとても誇らしく感じました。代表者挨拶の中に「感謝を忘れず」というフレーズが耳に残り、普段仕事を

をしていることが当たり前ではなく、さまざまな人達に助けられて、支えられて継続できていることに、自身の日常と重なり、改めて職場の仲間・家族に感謝の思いがこ

み上げてきました。

講演会では「言葉の力」をテーマに、日頃の挨拶や意識して声を出し、笑顔でいると、その場で脳が察知し、身体に影響を及ぼすということを実践しながらの講習会となりました。

朝の挨拶や笑顔が、身体の柔軟性まで変えてしまうという何とも不思議がいっぱいの講演に、会場が笑い笑顔で溢れていました。

午後からは、現役保育士さんコンピのパフォーマンスに、会場内は更に笑いっぱいになりました。

年に一度の保育大会が、参加者の笑い声と笑顔の時間となり、明日からの保育は今以上に笑顔と元気な挨拶でスタートしようと思えました。



「言葉の力」金原亭世之介師匠



〈すかんぼコンサート〉

いしおかブロック

かすみがうら市立わかぐり保育所
保育士 服部 智美

十一月十一日、結城市民文化センターアクロスにて「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして」というテーマのもと、第三十九回保育大会が開催されました。主催者、来賓の方々の挨拶や祝辞があり、保育所運営に対する沢山の期待の言葉を頂きました。

「待機児童解消加速化プラン」は、当初目標を上回るペースで施設整備が進んでいます。依然として待機児童は増え続け、保育士確保が追いつかない状態です。保育士の処遇改善し、保護者のニーズに応えられるように努めていきたいと思っています。

金原亨世之介師匠の講演「言葉の力」では、直接客席に入り話しながら進めたり挨拶や会話によって身体がどんな影響を受けるのかを、熱心に話されました。自分の言葉によって自分の能力を上げていく言語誘導や、TPOに合わせて物事の違いや見える物によって受ける影響、視覚誘導、実際に手の平や顔を上に向けた時と、腕を組み下を向いた時の思い、浮かび方の違い等の導体誘導を参加者皆で体験しました。

最後に、世之介師匠から子どもを叱っても、最後には気持ちの前向きになる言葉を添えれば、子どもは伸びることや、頑張っている子どもにも「頑張れ」だけではなく「頑張れ！あなたなら出来る」と言った方が心地良く感じるとのお話がありました。実際の保育の中で、子ども達とのコミュニケーションを図ることが、私たち保育士には大切であることが改めてわかりました。現場に持ち帰り実践して行きたいと思いません。

午後からは現役保育士ユニット「すかんぼ」さんのコンサートでした。保育雑誌を中心に活動されているので、現場での保育の参考にした

と思います。客席の参加者も隣の人と曲に合わせて、手遊びやふれあい遊びをしたり、アレンジ曲は、全員立ち上がり体を動かし、会場全体が一つになり楽しく参加出来ました。振り付けも子どもが楽しめる覚えやすくシンプルなものですが、二人の歌声や、パワフルな動きで、見ている私達まで元気を頂きました。明日からの保育に活かして行きたいと強く感じました。



〈笑顔いっぱい〉

花のおさなご
桜井 鱗子 作詞
大中 寅二 作曲

一、あけほのの光にもえて
咲きいずる花のおさなご
あたらしきのぞみのめばえ
はぐくむほこり
おおこのよろこび

二、ももくさのふたばのびて
とりどりに花のおさなご
たのもしきおくにのちから
つちかうほこり
おおこのよろこび

三、あおぞらの光はうらら
よにひらく花のおさなご
手つなぎのたのしきつどい
みちびくほこり
おおこのよろこび

平成二十九年 職員研修

新人研修に参加して

つくばブロック

つくば市立二の宮保育所

保育士 中 村 可菜絵

新任保育士のみが参加可能である貴重な研修会に参加させて頂き、県内各所から参加した新任保育士と共に、保育士としての在り方を顧みることができました。

まず、朝比奈泰子先生による講演では新任保育士としての心構えや、現代社会における保育士の役割を学びました。その中でも印象深かった内容が、「素直さを忘れずにいる」ということでした。例えば、保護者からの疑問や質問においての不明な点に関しては、曖昧な返答をするのではなく、多少時間が掛かってもしっかりと調べてから答えることが信頼関係を構築させるというお話でした。これは保育所内の職員同士の関係においても同様で、かつ、不明な点は具体的に「どこまでは分かるが、ここが分からない」と素直さと意欲を見せることが、より良い関係性を育むことに結びつくということを学

び、心に留めておきたいと感じました。

次に、講師の田山さち子先生と共にペットボトルを利用した「いっすんぼうし」の人形劇の制作を行いました。身近な廃材を利用した制作で、今後に生かしやすい学びとなりました。田山先生による制作方法や劇の演じ方はもちろんですが、一緒に参加した保育士の皆さんの制作においての工夫やアイデアを目の当たりにすることができ、とても参考になりました。

最後にグループ討議を行ないました。テーマはなく、各保育所の情報共有や新任ゆえの悩みを話し合う時間となりました。子どもや保護者との関係構築や保育所内の人間関係についての悩みが多くありましたが、グループ内で解決策を見出すというよりは、アドバイスを送り合い、また皆同じ思いでいるということの安心感を共有することができました。まだまだ新任でありながら、この研修を通して初心を持ち続けることの大切さを再認識し、保育士としての自らのあるべき姿を考える機会となりました。今回学んだことを礎に、

今後も経験を重ね、成長していきたくと強く感じました。

中堅保育研修に参加して

県央ブロック

恵泉保育園

保育士 藤 沼 静 佳

今回の研修では、「伝わる文章の書き方（保育士さん編）」、「子どもを預かる現場における深刻事故予防とコミュニケーション」という講演を聞きました。

まず初めの講演では、相手にとって分かりやすい文章を書くためのポイント、「短く書く」「重複を省く」「具体的に書く」という三つに気を付けること、おたよりや連絡帳では、同じ文章や言葉でも受ける感じ方は人によって違うので、ポイントを意識して書く事の大切さを学びました。

現在、文章を書く際によく添えられている何文字以上、という言葉により、長い文は良いと思いついでいる人が多いそうです。しかし、実際には、長い文は伝わりにくく、結論に達するまで時間がかかってしまうため相手に負担をかけてしまう、という事が特に印象的でした。又、一人ひとり感じ方は違うといわれます

が、連絡帳でよく使われる小さいや大きい、元氣や頑張る等も具体的に中身を知らせてあげる、工夫と配慮が大切だと感じました。

次に二つ目の講演では、「リスク」と「リスクコントロール」の違いを知り、対応の仕方を学びました。人間は、「楽観バイアス」と呼ばれ、自分の周りで悪いことは起こらないという考えを誰しも持っているそうです。しかし、私たち保育士は、子どもの命を預かっている社会的責任があり、リスクを出来る限りゼロにすることが求められています。そのためには、睡眠チェック、食物アレルギー、誤嚥、プール事故等、指を使って意識を向け言葉に出して保育士間で確認したり、深刻事故が起きてしまった時を想定して対応を学んでおく事の重要性を感じました。今回の研修で学んだこと、感じたことを心にとめ、これからも保育士としていきたいと思えます。又、自分自身文章を好きになり、言葉の森を育てることを目標に頑張りたいです。



新設保育園紹介

県北ブロック

社会福祉法人夢の種

南高野保育園

園長 長谷川 小夜子

社会福祉法人夢の種南高野保育園は、平成二十九年四月一日、日立市茂宮町に定員六十名の認可保育園を開園致しました。日立南インター近くの田園風景が広がる自然に恵まれた場所に建つ園舎は、茨城県材を使った木造の平屋で、茶色と白のコントラストが美しく家庭的な温かい雰囲気を感じられると、地域の方々や保護者からも好評です。園庭からは青空と山並みが連なる壮大な景色が望め、「お日さま」と「虹」をテーマにデザインしていただいたエントランスホールや保育室内は、お日さまや風が感じられる開放的な空間で、周りの自然と触れあいながら過ごす毎日、子どもたちの心を元気に豊かに育てています。

法人名の夢の種は、園生活の中でたくさんの方と人との関わり、様々な出会いや体験を通して心に種を蒔きやがて大きな樹となり、花を咲かせ夢が叶えられることを願い命名しました。

保育の特色としては、専門講師による「英語であそぼう」「茶道」「体

操教室」「音体教育」などを実施しており、観劇会やお話会、老人ホームとの交流会、地域のイベントへの参加など年間を通して様々な行事を経験する事により、情操豊かな思いやりの心を育て、心身ともに健康で楽しい園生活がおくれるように努めています。毎日提供される愛情たっぷりの給食やおやつは、テラススペースの「お日さまルーム」でお代わりをしながら楽しく食べていきます。また園の畑では子どもたちとともに野菜作りをしており、収穫したものは給食やおやつに調理してもらい食育に役立っています。

敷地内には学童棟もあり交流の機会も多く、園児は先輩が目標や憧れの気持ちを抱き、小学生は後輩への思いやりや労りの気持ちを育て、行事のお手伝いでは、大活躍で達成感や喜びを体験しているようです。

南高野保育園は「みんなの夢の応援団」でいられるように職員一同大きな愛情をもって保育に努め、園児や学童、保護者、職員、みんなの家族の笑顔が輝く場所でありたいと願っています。

認可保育園として一年生ですので、茨城県保育協議会の皆様にご指導をいただきながら成長して参りたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。



〈おひさまとにじをイメージしたホール〉



〈自然環境にめぐまれた木のぬくもりを感じる園舎〉

水戸ブロック

社会福祉法人太陽会

百合が丘ひまわり保育園

園長 木村裕子

今から二十年前に、八畳一間の小さな託児ルームを開設し、障がいのあるなしに関わらず、保育・学童を行ってきました。そこから、NPO法人子育て支援グループ「ひまわりのお家」に移行。そして、市内にある総合病院、院内保育所の委託を受けて十数年。それらが土台となり、社会福祉法人太陽会「百合が丘ひまわり保育園」を、平成二十九年三月に開園しました。

定員九十名、零歳から五歳まで各十五名、十一月現在で七十六名の園児が元気に過ごしています。

園舎の色をシックな黒にしたのは緑溢れる木々の色と、子ども一人ひとりが持っている綺麗な色が映えて、子ども達の素敵な個性を引き出したいとの思いからです。

また、お隣の方のご厚意で八月の夏祭り、九月の運動会に合わせて第二園庭・第二駐車場を整備することも出来ました。

第二園庭には、大きなねむの木と山桜が支え合うようにそびえ立っていて、毎日子ども達を見守っている

ように感じられます。そのような恵まれた環境の中、四季折々の草花を摘んだり、木の実を拾ったりしながら、子どもも大人も楽しんでいきます。

一人ひとりの子どもが感じる五感と直感を大人も感じられるように、子どもからの発想や発信を大切にしていきたいと考えています。

また、親の思いに寄り添い、心の拠り所となるよう「にこにこ子育て支援センター」も開設しています。親のアロママッサージ等では、「身体が楽になりました。」と笑顔になる様子を見て、嬉しい気持ちになります。

そして、当園の保育理念は「生きる力を育む」であり、生きているもの全てに対してのメッセージです。育むとは「相手に対する尊敬と感謝の意を示すこと、相手が自らの能力を発揮しようとする意欲を出すことの積み重ね」と捉えています。

子ども達の取り巻く環境は様々です。将来を担う子ども達が安心して気持ちで成長していけるよう保育を行っていききたいと思っています。

まだ開園して九か月ですが、保護者・地域の方々と協力し合いながら、ゆっくりと歩いていきたいと思っています。どうぞよろしく願っています。



〈こどもたちも柿をピューラでむきました〉



〈美味しい干し柿になあーれ〉

可能性は

つくばブロック

社会福祉法人清明福祉会

わかばキラメキ保育園

園長 藤田正幸

首都圏外郭に位置しながらも、紫峰の裾野に広がる未開の地に将来性を見出され、日本の頭脳としてその名を世に轟かせること半世紀、近年では都市化が進み更なる将来性が期待される研究学園都市つくば。その基盤を支える交通機関、つくばエクスプレスの市最西部に位置するみどりの駅から歩くこと十分弱、閑静な住宅街と共に佇む純白の園こそ、わかばキラメキ保育園である。新しいというだけで際立った特徴はない。敢えて挙げるとするなら構造が木造であること。一般論でいえば木造はなんら特筆すべきものではないのだが、素材の産地が『茨城県』であれば気にかける方は多いと思う。樺・榎・檜・杉等、建材で 사용되는代表的な木材はほぼ生息する資源豊かな茨城県。しかし建材の産地としてその名が挙がることはない。名声の境界は品質、大径であるかどうかによって左右されるが、茨城県産材は無名だが決して悪くはない。寧ろ同

郷の分相性は良いであろうと捉え、迷うことなく決に至った。樺・梅は高価なので除外、杉は柔らかいので除外と検討の結果品質及び単価が優れている檜になった。壁・造作物以外は総檜だけあって、殊の外香りが良く、特に月曜日の朝は癒される。どれだけ香りの強い給食であったとしても翌日には微塵も感じさせない。その芳香及び消臭効果だけでも木造化の価値は大いにあるだろうが、それにも増して期待されている効果がある。それは集団生活において決して逃れることのできない問題、感染症における効果だ。芳香及び消臭は我々でいう呼吸に等しく、吸入の際は様々な物質諸共吸い込み、排出の際は木の香のみを吐き出している。よく出来た空気清浄機のようにだが科学的根拠はなく、都合よく聞こえるだろうが、現実には園内において二次感染はない。



他の効果については未確認だが、不思議と期待できる茨城県産材、魅力は絶大だ。余談だが筆者自身が手入れしている園庭全面の芝生も園運営の可能性に加えておきたい。

元気の森保育園は、平成二十九年二月に社会福祉法人親愛会の千波保育園、葉山保育園に継いで三つ目の保育園として開園致しました。場所は東野町にあり、茨城県庁にも近くあちこちで雑木林が住宅地へと開発され、新しい家が建ち並ぶ中にあります。玄関に入ると、ふわあーっと木の香りがします。子ども達の手の届くところ、天井など至る所に木が使われていて、温かい木のぬくもりを感じます。大きな窓から燦燦と太陽の光が差し込む園舎になっていま

水戸ブロック
社会福祉法人親愛会
元気の森保育園
園長 飯村 美知子



す。

園生活をスタートする前に職員で掲げた理想は「子ども、保護者、保育者、みんなが笑顔いっぱい楽しく過ごしていける環境を作ってください。保育園でたくさんの方に挑戦し頑張る姿。たくさん体を動かして伸び伸びと遊ぶ姿など様々な子ども達の成長する喜びを一緒に感じていく」という内容です。この思いをベースとして保育理念『心と心、人と人がつながる、温かい丁寧な保育を目指して』を明確にし、保育の目標や方針につながる保育を実践していきたいと考えています。新設保育園なので、保護者への説明や接し方に特に丁寧におこなえるよう心掛けていきます。日々の子どもの様子を保護者に写真やボードでお知らせし、語り合う時間を大切にしています。この他にも連絡帳でのやり取りや送迎の際に直接話が出る機会を多く持つようにしています。子ども達の日の姿を知る事で安心して保育園に預けてもらえるよう信頼関係を築く事に努めています。

保護者や子どもだけでなく共に働く職員にとっても信頼関係は必要不可欠です。職員は姉妹園の千波保育園と葉山保育園からほとんどですが、他の幼稚園や保育所からも集まりました。だからこそコミュニケーション

ションを密に取る必要があります。より信頼関係を築くことが大切です。職員会議等で意見を述べる場でも、自分の意見を出し合えるようになってきました。

給食では、ほとんどの子どもが初めて集団生活なので献立は家庭で食べているなじみのあるものや、子どもが食べやすいものを中心に考えています。栄養士が直接保育の場に入る事で子ども一人ひとりの好みや食べる量を把握し、献立・調理に還元できるよう努めています。

子ども、保護者、保育士と関わる中で日々の保育を常に振り返り、明日への保育に繋げていく事が『質の向上になる』と信じながら、育つ子どもの笑顔を絶やさぬよう職員一同心を一つに頑張っていきたいです。



〈自慢の園舎〉

みんなの広場

「幸福に包まれて」

つくばブロック

社会福祉法人 こころの種福社会

つくばトッポンチーノ保育園

園長 三上 恵子

「つくばトッポンチーノ保育園」は設立三年目、全身からすでに三十年モンテッソーリ教育の実践をしています。子どもの発達には「自然の法則」があり、幼児期は人間として生きていくために必要なことを身につける最適な時期なのです。自発的に「生きる力」を身につけられるよう日常を秩序あふれる自由な環境の中で、縦割り小グループ保育で展開しています。知性の芽生えから獲得まで、子ども同士が憧れて真似したり、知っているやり方や知識を伝えあったり、動きながら、学んでいます。手先をよく使い段取りの身に付く作業を子ども達は「お仕事」と呼び、各々が誰のためでもない、好奇心に突き動かされながら自分のために選んで無我夢中で取り組んでいます。子ども達は自分の意志を働かせたからこそ、内面から輝いています。充実感、自己肯定感に満たされ、他者をも認める喜びが自然に湧いています。教具教材との触れ合いで身につけた「物の考え方」が活かして、食

育、国際交流、バイリンガル、養蚕や畑作、博物館巡り遠足など視野の広がりを楽しんでいます。命を慈しむ体験を日常化し、三世代や地域で子どもを見守る環境を豊かに整えています。子ども達を未来の文化の担い手として手渡すために丁寧な実践を続け、皆の心を紡ぐ心の種まきから笑顔の花が咲くことを願ってやみません。



〈ハロウィン・パーティー〉



〈おみこし わっしょい〉

「縁あって」

鹿島神栖ブロック

白十字保育園

園長 野口 とし子

保育の道に入り、間もなく四十年を迎える。思い起こせば学生の頃、身近に幼子がいなかったため、保育実習への不安は大きかった。しかし、幾度となく実習を重ねていくうちに気持ちに変化が出てくる。「こども」と言ってもひとりの人間であり、幼いなりに個々の考え方や、感じ方を持っている。私と何ら変わらないので、不安に思うことなど無い、と。しかし、子どもから「先生」と呼ばれる立場になると又、不安が生まれた。これでもいいのか、私の保育は・・・という不安である。それでも縁あって当園に勤務し、四十年が過ぎようとしている。保育士、主任保育士、園長と職位は変わったが、「私」は私である。この仕事を続けることができ、本当に良かったし、楽しかったと思える自分がある。仕事を通じて出会えた方々に心から感謝している。ありがとう。

突然話は変わるが、縁あって娘夫婦が沖縄県に住んでいる。先日その娘のところまで体験してきたことを書いてみようと思う。

成田空港から三時間あまりで、那覇空港着。九月の旅行だったので、暑いし、飛行機から降りた瞬間から南国、そして空港内に咲き乱れる花々。きれいな花に癒されながら出口ゲートを目指すと、カートを押す男性の職員。カートには小鉢に入ったランの花が乗っている。カートを押しながら、飾られている花の手入れをする方のような。咲き終わった花を摘み取り、水をやったり、鉢を入れ替えたりしている。こういった手入れがあつて、素敵な花々に迎えられるんだと感心した。ありがたう。出迎えてくれた娘夫婦の車で名護市内へ向かう。途中、名護市役所へ寄つたのだが、その建物のすばらしさにびっくりしてしまった。そのすばらしさは文字で表現できないので、名護へ行った際には見学に行つてみてください。

離島伊是名島へ一泊二日で行くことになった。船から見ると海の色、そしてくらの多いこと。あちこちにぶかぶかしている。沖繩には毒のある生き物、植物も多いので要注意です。島内移動は、もちろんママチャリ。暑いし、坂道はあるので還暦前の自分にはかなり堪えたが、そこはそれ、ひたすらやせ我慢した。その上、突然のスコールのような雨が降り出す。それでもママチャリは

行く。テーブル珊瑚の塀で雨宿りをするが、4人ともぐつしより濡れてしまった。でも寒くはない。互いの姿を見ては大笑いの旅だった。民宿では、大きな布団に川の字ならぬ、川の字プラス1。4人で就寝するが、これもまた楽しかった。



〈私 海人?〉



常総ブロック

安静保育園

園長 久保谷 壽美子

当園は、定員九十名の民間保育園で、昭和四十八年に開設されました。創立四十周年を迎えた平成二十五年

に園舎改築を行いました。改築のこだわりとして、つくば市在住の陶芸家の先生にお願いして、笠間焼で入り口の門柱の園名、玄関の上の園章、ホールの園章、玄関のタイル画、各クラスのネームサインを作っていただきました。特に玄関のタイル画は、当園の各クラスをモチーフに、「ひよこ」「りす」「うさぎ」「きりん」の動物が雲の上で仲良く遊んでいる様子に仕上がっております。

保育目標は

「健康で明るく元気な子ども」

「いきいきと遊べる子ども」

「思いやりのある子ども」

とあるように、園児、職員共に元気いっぱい遊び、いつの時代にも子どもは家庭だけで育つものではなく、同年代の多くの子ども達の中で、育つてこそ健全な社会人として生活できるのではないかと考えた日常保育を行っています。

保育の内容として、平成十三年から表千家の教授に年長児が月二回茶道を習っています。最初は甘い和菓子を食べるのが楽しみな園児達も回を重ねるごとに、先生のお点前を見て、お互いにお茶をたてる練習をしながら、二月の保育参観日に、お母さん方に「どうぞお召し上がりください」と言ってお点前を披露している姿は、もう立派な茶人の様です。

茶道の歴史は、今から千五百年前僧侶が中国からお茶の苗をもらってきたのが始まりですが、茶道は五百年前に千利休によって現在の形がつけられました。お茶をたてて飲むだけでなく、礼儀作法を含めて学び伝統文化の継承とともに未来を担う子ども達の心の中に、日本人の精神文化の土台を育みたいと思っています。

最後に、時代の移り変わりにつれて、保育を取り巻く環境も変化しています。児童福祉法と法人の設立理念に基づき、働く親が安心して預けられるあたたかみのある施設にするため、職員一同協力してあたっています。さらに、園児が心身ともにたくましく、個性豊かに成長発達していくように、保育の専門職として、最善の努力をしていきたいと考えています。



〈お茶会〉

特例制度を利用して

幼稚園教諭免許状の取得

を目指す保育士のみなさまへ

取得条件

基礎資格	一種	学士の学位を有し、かつ保育士資格を有すること。
	二種	保育士資格を有すること。(高等学校を卒業していない場合は、免許状を取得できません。)
勤務経験		保育所等の施設で3年以上、かつ4,320時間以上の勤務経験を有すること。
必要単位		教職に関する科目のうち、所定の科目を8単位以上修得すること。(放送大学で8単位修得可能)

放送大学では、年間2回、4月と10月の新入学生を募集しています。半年で8単位を修得するなら51,000円、1年かけても53,000円で幼稚園教諭免許状を取得できます。詳細をお知りになりたい方、まずは放送大学茨城学習センターにご連絡ください。入学手続き、履修の方法、免許状取得までの流れ等、入学から修了にいたるまでの疑問にお答えする個別相談会を開いております。

関連URL <http://www.ouj.ac.jp/lp/lp22/>

放送大学では幼稚園教諭免許の更新もできます

放送大学では、教員免許更新のための講座を開講(1年に2期)しております。通信制なので通学することなくインターネットやテレビ・ラジオで受講し、学習センターで受験します。合格すれば修了証明書が発行されますので、県教育委員会に更新申請し完了です。

講座の内訳は、必修領域「教育の最新事情」6時間、選択必修領域6時間、選択領域18時間。計30時間の受講で試験を受けることができます。開講科目(必修領域を除く)は次の通り。「教育政策と学校の組織的対応」・「スクールカウンセリング」・「情報社会に対応した学校教育」・「学校経営」・「現代の生徒指導」・「小学校外国語活動(英語活動)概論」・「環境教育の実践」 各科目とも6時間受講
詳細をお知りになりたい方はお問合せください。



【連絡先】 〒310-0056 水戸市文京 2-1-1 (茨城大学構内)

電話：029-228-0683、Fax：029-228-0685

新しいものを見るたび、触れるたび、目覚ましく成長する子どもたち。

子どもたちにとって、毎日が成長の舞台です。

育む環境で、子どもたちの明日は変わる。

だから、私たちは大切なことを「環境」から考えます。

好奇心や想像力、勇気や感動。そして、子ども同士の関わり合い。

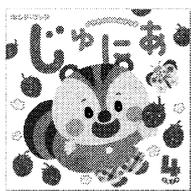
子どもたちが大切な時期に、確かな一歩を踏み出せるように、

最良な環境の未来をつくりあげていきます。

こども環境の未来をつくる



月刊誌キンダーブックは、子どもたちの未来につながる
「生きる力」と「豊かな心」を育む保育絵本です。



●じゅにあ●
1・2・3歳向け
子どもとおとなの
スキンシップ絵本



●キンダーブック1●
2・3歳向け
生活習慣と社会性の
育ちを支える絵本



●キンダーブック2●
3・4歳向け
豊かな感性と
情緒を育む絵本



●キンダーブック3●
4・5歳向け
「生きる力」を養う
観察絵本



●がくしゅうおそろ●
5・6歳向け
小学校で伸びる芽を
育む学習絵本

フレーベル館茨城販売株式会社

〒300-0812 茨城県土浦市下高津3-9-11 TEL (029) 821-6429 FAX (029) 821-6438

編集後記

今年の流行語大賞の「インスタ映え」、私も広報委員として写真を載せる機会を頂き、被写体の構図等に少々興味が出てきました。シャッターチャンスを伺いながら、自分の納得できた一枚に仕上がった時、皆に見てもらいたい気持ちになりました。先日は、我が子に「お母さんにしては、いい写真が撮れたね」と認められ、今後の趣味の一つにしようかと企み始めました。

保育通信の編集に少しでも従事できた事、皆様に感謝いたします。最後まで、お読み頂き、ありがとうございました。
(M・K)

この保育通信は、共同募金分配金をうけて作成しています。

毎号、綴込んで保存してください。

各職員に回覧してください。